

科目No. 34		配当時期 4年次全期	担当者	
科目名	保健医療福祉論	単位数 1単位	あおき あつひで 青木 淳英	
時間割表記名	保健医療福祉論	時間数 16時間（8回）		
科目全体のねらい 保健医療福祉の行財政の理念と基本的仕組みを踏まえたのち、生存権保障の重要な手段である社会保障・社会福祉制度について学ぶ。またそれらの学びを通して、健全で健康的な私たちの暮らし・人生はどのように守られているのか、私たちはどのように制度を支え、利用していくのかについて、理解をより深めることを目的とする。			ディプロマポリシーとの関連	
授業目標 授業を通して、(1)保健医療福祉の行財政の理念、社会保障・社会福祉制度の基礎的知識を有している、(2)私たちの健全で健康的な暮らし・人生がどのように守られているのかを知り、保健医療福祉の制度・サービスの存在意義を説明できる、(3)制度を支える側・利用する側の双方の視点から問題・改善点を示すことができる、という力量の獲得及び向上を目指す。				1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
				2. 生命の尊厳をもって対象に関わることでできる力を身につけている
			○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
			○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
				5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
第1回 オリエンテーション／保健医療福祉の歴史 ＜授業目標＞ 現代社会の変化と保健医療福祉の動向を知る。				
第2回 福祉行財政と社会保障制度 ＜授業目標＞ 保健医療福祉行政のしくみを理解し、その役割について理解を深める。				
第3回 公的扶助（生活保護制度） ＜授業目標＞ 生活保護制度や生活困窮者自立支援制度について学ぶ。				
第4回 社会保険①（年金・労災） ＜授業目標＞ 社会保険の考え方を理解するとともに、年金保険・労働者災害補償保険のしくみを知る。				
第5回 社会保険②（医療） ＜授業目標＞ 日本の医療保険制度について理解するとともに、その成り立ちや問題点について考える。				
第6回 社会保険③（介護） ＜授業目標＞ 介護保険制度について、その成り立ちや制度の仕組みについて学ぶ。				
第7回 子どもと家族への支援 ＜授業目標＞ 日本における子育てに関わる福祉制度・サービスについて学ぶ。				
第8回 障害のある人への支援 ＜授業目標＞ 「障害」に関する思想や考え方を学ぶとともに、障害者施策の動向を知る。				
※授業進度に応じて、内容を変更することがある。				
受講上の注意 ＜事前学習＞ 新聞やニュース、ドキュメンタリーなどで、医療や介護をはじめ、社会保障制度全般に関わる報道に注目し、日頃から関心を持つておくこと。子どもや高齢者、障がい者への虐待、孤立・孤独死、貧困も重要な学習課題である。なお、公衆衛生学、地域看護学、在宅看護学、医療と倫理は関連性がある。 ＜授業の進め方＞ テキストを中心に授業を行う予定だが、演習（個人ワーク、グループワークなど）の実施や、資料・視聴教材に関する感想・意見を求めることがある。			評価方法 筆記試験、受講態度、事前・事後課題で評価する。	
使用するテキスト ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障（メディカ出版）※2年次の「社会福祉」のテキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度(4)看護関係法令（医学書院）※3年次の「関係法規」のテキスト 参考文献 『国民衛生の動向 2024/2025（第71巻第9号）』厚生労働統計協会				

科目No. 37		配当時期 4年次全期	担当者 にしざわ 西沢 いづみ（8回） あおき あつひで 青木 淳英（7回）
科目名 医療と倫理	単位数 1単位		
時間割表記名 医療と倫理	時間数 30時間(15回)		
科目のねらい 医療技術が高度化している現代において、生命の価値、医療のあり方と社会的期待、医療における経済など、現代医療が持つ問題について学ぶ。		ディプロマ・ポリシーとの関連	
授業目標 西沢：看護に携わる学生にとって必要な生命倫理の課題に取り組みながら ①技術の存在意義や利用の仕方、人間の生きる方向性を考える ②自分以外の人の話や考え方に耳を傾ける ③自分の意見を述べる能力を養う 青木：(1)医療従事者として、専門職の視点で「倫理問題」を考える (2)患者・当事者が抱えている問題について理解を深める の2点が授業の目的である。 授業を通して、(1)医療従事者として直面するであろう「倫理問題」について広く関心を持ち、多角的な視点から考えることができる (2)自分の意見を持ち、論理的に表明することができる という力量の獲得・向上を目指す。			1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
		○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
		○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
			4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
			5. 看護を探求しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
西沢 1. 倫理学とは何か：自分が現在もっている「いのち」に対する価値観を認識する。Discussion 2. 医療資源の配分 ：医療資源の配分は命の配分であることを認識し、その線引きの判断は何に依っているのかを考える。Discussion 3. 出生前診断：診断は誰の何のためにあるのか。私たちの潜在意識の中にある優生思想を考える。 NIPT（新型出生前診断）に関する映像を鑑賞する。 4. 受精卵や胎児はいつからひとになるのか・ひとはいつ「死ぬ」のか ：連続性のあるものに線引きをすることで自分の死生観の一側面を考える。Discussion 5. 医療倫理の歴史と課題 ：生命の尊厳・生命の質・インフォームドコンセント・自己決定などの意味を理解し、実践に生かす。Discussion 6. こうのとりのゆりかごと養子縁組：「こうのとりのゆりかご」の存在意義と社会的背景を考える。 7. 脳死と臓器移植①：脳死と臓器移植の実態を踏まえた上で、社会的背景と抱える問題を考える。 また臓器（脳）の死と「人が死ぬ」ということについて考える。長期脳死のドキュメント映像を鑑賞。 8. 脳死と臓器移植②：長期脳死のドキュメント映像を鑑賞。Discussion 安楽死（ALS囁託殺人事件の映像を鑑賞する。死に迫りやめたものは何か。） 青木 1. 少子高齢社会・人口減少社会の到来：少子高齢社会・人口減少社会の到来とその影響について理解する。 2. ダイバーシティ - 医療現場での課題：「多様性」を踏まえた医療現場での課題について考え、議論する。 3. パンデミック - 医療従事者が直面する課題と患者・家族への対応 ：パンデミック下における患者・家族の思いを踏まえた対応について考え、議論する。 4. 病児・障害児 - 子どもホスピス：重い病気や障害を抱えた子どもやその家族への支援を考察する。 5. 障害者迫害 - 優生思想と向き合う：優生思想に向き合い、「命の価値」について考察する。 6. 難病 - 命をめぐる対話：「閉じ込め症候群」の患者とどう向き合うか、「いのちとは何か」を考える。 7. 貧困 - メディカル・プア：個人の経済力が健康格差を生んでいる状況について考察する。			
受講上の注意 西沢：あなたの人間に対する興味、知ろうとする意欲を持参してください。 グループディスカッションでは、自分の意見を積極的に発言してください。 青木：＜事前学習＞新聞やニュース、ドキュメンタリーなどを通じて、普段から医療や福祉、介護の問題に関心を持って授業に臨むこと。なお、公衆衛生学、地域看護学、在宅看護学、保健医療福祉論は関連性がある。＜授業の進め方＞授業は資料・視聴教材を題材として、講義・演習（個人ワーク、グループワークなど）形式で進めていく。各自が授業テーマについて深く考え、グループにおいても活発に議論するなど、授業に積極的に参加してほしい。		評価方法 西沢：50点 グループディスカッションの様子と 各回提出のレポート内容で評価する。 青木：50点 筆記試験、受講態度、事前・事後課題で評価する。	
使用するテキスト 西沢：『生物と生命倫理の基本ノート』（金芳堂） 参考文献 『系統看護学講座 別巻 看護倫理』（医学書院）			

科目No. 61		配当時期 4年次全期	担当者 森田 真帆 久保 千晴 (くぼ ちはる) 本多 知央 (ほんだ ちお)
科目名	エンドオブライフケア	単位数 1単位	
時間割表記名	エンドオブライフケア	時間数 30時間(15回)	ディプロマ・ポリシーとの関連
科目のねらい 最期までその人らしい生と死を全うできるように支援する看護について理解を深める また対象とその家族をとりまく人々を支援する多職種連携、死をよりよい 状態で迎えられるように支援する看護が実践できる能力を培う		○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
授業目標 人の一生を通して人生の最期を生きぬき死を迎える患者およびその家族への 看護について理解できる 自己の死生観を深めることができる		○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
			3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
			4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
			5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習目標	方法・場所	学習内容
1	エンドオブライフケアの概念と対象について理解できる	講義 教室	①エンドオブライフケアを取り巻く社会の状況 ③死について ②エンドオブライフケアの概念とその対象
2	エンドオブライフケアにおける対象の捉え方が理解できる	講義 教室	①全人的苦痛 ②死の受容過程
3 (久保)	エンドオブライフケアを必要とする対象と家族への援助の方法が理解できる	講義 教室	①症状マネジメントとケアの実際 ②疼痛ケア ③家族への予期的悲嘆への援助 ④終末期に関する社会資源
4 (久保)			
5	緩和ケアについて理解できる	講義 教室	①緩和ケアの定義・歴史的背景 ②チームとしてのアプローチ
6・7	エンドオブライフケアにおける生活支援技術を通して安楽を促進する看護技術が実践できる	演習	①患者にとって安楽な療養環境 ②日常生活支援
8	死亡直前(危篤時)～死亡時の援助が理解できる	講義 教室	①危篤時～死亡時の身体的状態と必要な看護 ②家族看護
9	死後処置の目的・留意点・方法を理解できる	演習	①死後の処置の実施方法 ②死後の処置に伴う礼儀と意味 ③家族への看護
10	エンドオブライフケアの必要とされる場所とその看護について理解できる	演習	エンドオブライフケアの必要とされる場所とその看護について
11	在宅でのエンドオブライフケアについて考えることができる	講義 教室	①在宅におけるエンドオブライフケア ②在宅における家族看護(グリーフケア)
12	エンドオブライフケアを発達段階の視点から考えることができる	講義 教室	①発達段階から見たエンドオブライフケア ②子どもとその家族へのエンドオブライフケア
13 (本多)	誕生死とエンドオブライフケアについて考えることができる	講義 教室	①誕生死について ②うまれてくる児とその両親に対するエンドオブライフケア
14	エンドオブライフケアにおける倫理的問題について考える事ができる	講義 教室	①事前指示 ②尊厳死(リビングウィル) ③安楽死 ④告知の目的・基準・評価(ギアチェンジについて)と看護師の役割
15	自己の死生観について考えることができる	講義 教室	①死生観
受講上の注意 グループワークを通し、みんなで考えていく授業です。 自分の思いを他者に伝える努力をし積極的に参加してください。			評価方法 筆記試験 50点 (森田35点・久保15点) 課題・出席点 50点
使用するテキスト 新体系看護学全書 終末期看護：エンドオブライフケア (メヂカルフレンド社) 死生の臨床人間学－「死」からはじまる「生」 (晃洋書房) ※3年次「看護学原論Ⅱ」で使用 参考文献			

科目No. 76		配当時期 4年次全期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	担当者 つじもと ようこ 辻本 陽子	
科目名	母性看護学方法論Ⅲ			
時間割表記名	母性看護学方法論Ⅲ		ディプロマポリシーとの関連	
科目のねらい ライフサイクル各期の女性の心身の健康課題の特性を学ぶ 対象へのリプロダクティブヘルスの支援の在り方を学ぶ			○	1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
			○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
				3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
授業目標 ライフサイクル各期の女性の心身の健康課題の特性を理解する 生殖医療（出生前診断／不妊治療）の基本と看護の視点を理解する 現代女性のリプロダクティブヘルスの課題をとらえ必要な支援を考察する			○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
			○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	方法	学習成果	
1回目	ライフサイクル各期(思春期)	講義	思春期の特性と看護を理解する	
2回目	ライフサイクル各期（更年期・老年期）	講義	更年期・老年期の特性と看護を理解する	
3回目	リプロダクティブヘルスの健康教育	講義/ワーク	健康教育の在り方を学ぶ ライフラインチャート／ピアワーク	
4回目			性に関する正しい理解とピアワークの実践 「避妊と性感染症予防」～どのように伝えるか～	
5回目	生殖医療の看護 出生前診断の看護／不妊治療の看護	講義/ワーク	出生前診断と不妊治療の看護 ・現状や医療を理解する ・対象の特性を理解する ・必要な看護を理解する	
6回目				
7回目	現代女性をめぐるリプロダクティブヘルスの現状と課題と展望	講義/討議	女性を取り巻く社会の問題を通じて、リプロダクティブヘルス・ライツやジェンダーの課題と真の平等'について学ぶ	
8回目				
9回目	現代女性をめぐるリプロダクティブヘルスの現状と課題と展望	課題	女性を取り巻く社会の問題を通じて、リプロダクティブヘルス・ライツやジェンダーの課題と真の平等'について考察する	
10回目				
受講上の注意			評価方法 課題レポート	
使用するテキスト 系統看護学講座 母性看護学(1)母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学(2)母性看護学各論 医学書院				

科目No. 82		配当時期	4年次全期	担当者
科目名	看護の統合と実践Ⅱ	単位数	1単位	セーフティマネジメント 林 知江美 (はやし ちえみ) OSCE
時間割表記名	看護の統合と実践Ⅱ セーフティマネジメント／OSCE	時間数	30時間(15回)	森田 真帆 ディプロマ・ポリシーとの関連
科目全体のねらい 医療安全の基礎的な知識を活かし、事例を教材にしてリスクマネジメント能力や倫理的判断能力を養う				○ 1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている ○ 2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
授業目標 1. 医療安全に関する最新の知識・技術が理解できる 2. 医療チームの一員としての行動について学習する 3. 事例を教材にして、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養う 4. 領域別実習で得た知識・技術を統合し、対象の状況に応じた看護を実践する				○ 3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている ○ 4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている ○ 5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
セーフティマネジメント				
回数	学習内容	方法	学習成果	
1	医療安全・管理学概論 医療安全管理とは／医療安全の歴史と動向について／医療安全管理の実践	講義	医療安全（患者安全）の原則と管理の実践がわかる。	
2	ヒューマンファクターズとシステム思考 人間工学の応用 システムアプローチについて	講義 演習	ヒューマンファクターズと患者安全の関係を理解する。 システム思考を用いることによって、どのように医療が改善され、有害事象が最小限に減らせかを理解する。	
3	事例分析と対策 分析方法について KYTによる事例分析と対策立案	講義 演習	エラーから学び、患者安全を改善する方法を理解する	
4	臨床におけるリスクマネジメント インシデント報告について／有害事象発生時の対応／リスクに関する情報収集方法	講義 演習	リスクマネジメントの原則と実践がわかる。	
5	医療安全対策の実践 患者安全全国共同行動／ダブルチェック、6R、患者確認など実際の対策の紹介	講義 演習	本邦における医療安全対策の実践がわかる。 基本的な医療安全対策が実践できる。	
6	チーム医療における医療安全 ノンテクニカルスキルの重要性 チームSTEPPSの活用	講義 演習	医療におけるチームワークの重要性を理解する。 有能なチームの一員となるための方法を学ぶ。	
7	患者、家族との協働 コンフリクトマネジメント／意思決定支援	講義 演習	コンフリクトマネジメントの考え方を理解する。 患者・家族が医療におけるパートナーとして協働できる方法を理解する。	
OSCE				
回数	学習内容	方法	学習成果	
1	演習の進め方、グループ決定 scenarioの提示、事前学習、演習計画	講義	演習の意義、目標を理解することができる scenarioの患者を理解することができる	
2	治療に伴う場面におけるシミュレーション演習	技術演習	事例の患者に必要な看護を実施することができる	
3	多重課題におけるシミュレーション演習	技術演習	多重課題の中で優先順位を考えた実践をすることができる	
4	多重課題におけるシミュレーション演習	技術演習	多重課題の中で優先順位を考えた看護実践ができる	
5	OSCE試験	技術試験	OSCEを通して自己の看護実践を客観的に評価し、課題を明確にできる	
6				
7	OSCE後の振り返り・知識確認テスト	講義		
8	多重課題におけるシミュレーション演習	技術演習	4年間の集大成となるよりよい看護実践ができる	
受講上の注意 講義と演習が並行してありますので、実習での体験や学びを振り返りながら取り組んでください。				評価方法 セーフティマネジメント 50点 筆記試験／課題等
事前学習内容 ＜セーフティマネジメント＞ 自己の専門領域別実習を振り返っておいてください ＜OSCE＞ 看護の統合と実践Ⅱ（OSCE）・4年次領域別実習を終了したことを自覚し、自己の看護実践能力を振り返り、課題を明確にして演習に臨んでください。				OSCE 50点 課題提出 OSCE 知識確認試験
使用するテキスト				
参考文献				

科目No. 83		配当時期 4年次全期	担当者	
科目名	看護管理	単位数 1単位	たちき みちよ 立木 三千代	
時間割表記名	看護管理	時間数 20時間(10回)	ディプロマ・ポリシーとの関連	
科目全体のねらい 看護におけるマネジメントの基本や看護管理についての基礎的な理解を深める				1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
			○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
授業目標 看護におけるマネジメントの基本や看護管理についての基礎的な理解ができる				3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
			○	4. チームの一員として、多職種と連携協働できる力を身につけている
				5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
・看護におけるマネジメント 看護管理学とは 看護とマネジメント ・看護ケアのマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践 ・看護職としてのセルフマネジメント ・看護サービスのマネジメント ・マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップとマネジメント 組織の構造とマネジメントとの関連 ・看護をとりまく諸制度 看護職 医療制度 看護政策と制度				
受講上の注意			評価方法 筆記試験 課題レポート	
使用するテキスト				
系統看護学講座 看護の統合と実践(1)看護管理 医学書院				
参考文献				

科目No. 85		配当時期 4年次全期		担当者 災害看護 阿形 奈津子 クリティカルケア認定看護師 野村 典子 ふじい とみみ 国際協力 藤井 知美	
科目名 災害看護と国際協力		単位数 1単位			
時間割表記名 災害看護 国際協力		時間数 30時間(15回)		ディプロマ・ポリシーとの関連	
科目のねらい 広範囲に健康障害が生じる災害時の看護について学習するとともに、災害各期における役割機能と看護活動について理解を深める。グローバル化を視野に入れ、国際協力について考える。					1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
					2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
授業目標 災害看護 1.災害の定義と災害に関連する制度、災害看護の歴史と現状について理解する。 2.災害サイクルと各期の特徴、看護について理解する。 3.災害時の看護についてシミュレーションを通して考察する。 国際協力 1.自国とは異なる国や地域の政治、経済、教育、文化、保健医療システムについて多面的に理解し、多様な社会で生活する人々の健康課題と保健・医療・看護活動の実際を学ぶ。 2.日本や諸外国および国際機関における国際保健・医療・看護協力活動の歴史や現状を知り、グローバルな視点で看護を考える。				○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
				○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
					5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) <災害看護>					
回数	学習内容		方法	学習成果	
1	災害の歴史・災害発生と救護活動・災害看護の発展と今後		講義	災害の歴史を理解し、近年の災害発生の状況と救護活動、災害看護の発展から今後の課題について理解する。	
2	災害の定義、災害看護の定義と役割・災害の種類とその疾病構造		演習	災害看護の役割を理解し、災害の種類や疾病構造に応じた看護活動について理解する。	
3	災害超急性期～災害医療の実際(体系的なアプローチ：CSCA)・情報伝達・病院での初期対応の演習		講義 演習	災害急性期を理解し、災害医療について理解することができる。演習を通して超急性期に必要な発災時の初期対応の流れを理解し、実際に体験できる。病院発災シミュレーション（病院トリアージの実際）	
4	東日本大震災における災害医療 災害看護の概要		講義	東日本大震災での医療・看護活動から今後の課題を理解する	
5	急性期の災害医療・災害看護活動 災害時の3T		講義	災害時のトリアージの方法を理解する 災害現場での応急処置の目的・順序と限界を理解する。	
6	災害訓練の実際（京都桂病院の災害訓練参加：被災者役の体験から病院での受け入れシミュレーション）		演習	実際の病院での災害訓練に参加し、被災者役を通してトリアージの実際と、被災者の心理を理解する。実際の受け入れ現場を見学することで災害時の被災者受け入れについて学ぶ。※7回目の訓練に向けて訓練についてと、被災者役のガイダンスが別途あります。	
7	災害中長期の看護の実際（避難所を整える・避難所生活を支える）		演習	災害時の避難所の配置と避難所生活の調整についてシミュレーションを通して考える。	
8					
9	災害に関連した特殊な医療・看護実践・災害特有の疾病・被災者と支援者の心理とケア		講義 演習	近年の災害と特殊な医療（CSM・CBRNE）・特有の疾病とその看護・国際的な災害支援	
10	災害看護まとめ・30事例の2次トリアージと対応を皆で実践！看護について考える		講義 演習	災害搬送された被災者30事例の2次トリアージを実施し、グループで対応の検討（今までの知識を応用、活用する）	
<国際協力>					
回数	学習内容		方法	学習成果	
1	国際看護の主要概念 世界の保健・医療・看護の動向		講義	国際的看護活動の実状を知る 世界の保健・医療・看護の動向を理解する	
2	国際協力機関の協力の仕組みや支援活動の実際ならびに課題		講義	異文化の中での看護活動 国際協力機関の協力の仕組みや支援活動の実際ならびに課題について理解する	
3	国際的看護活動の実際・実状（国際看護活動の実践報告を通して）		講義	国際看護活動の実践報告を通して国際的看護活動の実状を知る	
4					
5	国際看護活動の課題と展望		ワーク	国際看護活動の課題と展望を考察する	
受講上の注意 講義と演習の組み合わせです。実践を通して学ぶことが求められます。 災害看護：演習の出席点評価となります。必ず出席し、演習は積極的に取り組んでください。 6回目は京都桂病院での災害実地訓練です。オリエンテーションを含め参加してください。（10点） 7回目と8回目は看護保健学科との合同演習です。（10点） 国際協力：授業への積極的参加を期待しています。					
使用するテキスト 災害看護：新体系看護学全書 災害看護学（メヂカルフレンド社） 国際協力：知って考えて実践する国際看護（医学書院）				評価方法 阿形：演習の出席点20点 筆記試験50点 藤井：課題レポート 30点	
参考文献 災害看護：救急看護論（ヌーヴェルヒロカワ）、急性期看護論（ヌーヴェルヒロカワ）、New図解救急ケア（学習研究社） 災害現場でのトリアージと応急処置（日本看護協会出版会）、演習で学ぶ災害看護（南山堂） 演習で学ぶ災害看護（南山堂）、災害看護 心得ておきたい基本的な知識（南山堂） 国際協力：医師のいないところで 国際保健協力市民の会、いのち・開発・NGO：子どもの健康が地球社会を変える 新評論 国際看護学-グローバルナースングに向けての展開-（中山書店）					

科目No. 86		配当時期 4年次全期	担当者 なかむら こうじ 中村 考志(8回)
科目名	感染症と看護	単位数 1単位	安藤 えつ子(2回)
時間割表記名	感染症と看護	時間数 20時間(10回)	
科目全体のねらい 感染症対策への意識を高め、対象特性や看護活動の場の変化における 感染症の理解を深めてその予防対策と感染発生時の適切な対応につ て学ぶ			ディプロマ・ポリシーとの関連
授業目標 1. 感染予防の基礎的な知識を習得する 2. 院内感染の予防策・対策を理解する 3. 小児・学校感染症の種類と対処を理解する 4. 事例の感染症の対処方法を考える 5. 地域における感染症発生時の対応と予防策が理解する			1. 人としての成長を目指せる人間 性の豊かさを身につけている
			○ 2. 生命の尊厳をもって対象に関わ ることができる力を身につけている
			○ 3. 対象を生活者としてとらえ健康状 態に応じた看護が実践できる力を身 につけている
			○ 4. チームの一員として、多職種と連 携・協働できる力を身につけている
			5. 看護を探究しつづける力を身に つけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
担当：中村			
1回目	看護に必要な感染症の基礎的知識を理解する	講義	
2回目	院内感染症予防と対策	講義	
3回目	院内感染症と看護 医療器具関連感染について① (血管内留置カテーテル関連血流感染・カテーテル関連尿路感染)	講義	
4回目	院内感染症と看護 医療器具関連感染について② (人工呼吸器関連肺炎・手術部位感染)	講義	
5回目	小児感染症・学校保健	講義	
6回目	結核・HIVの基礎知識及び患者の看護 (対応と感染対策を理解する。)	講義	
7回目	事例で考える感染症対策 (結核を発症した患者・エイズ患者が入院した時の対応と感染対策を理解する。)	演習	
8回目	事例で考える感染症対策	演習	
担当：安藤 (手術を受ける患者の看護・耐性菌検出患者の対応と感染対策を理解する。)			
地域における感染症発生時の対応と予防策			
1回目	主な感染症と保健活動① 感染症、食中毒に関する法律を理解する 主な感染症、食中毒の発生の動向と予防対策を理解する 平常時の予防、啓発活動を理解する		
2回目	主な感染症と保健活動② 感染症、食中毒の集団発生時(疑いを含む)の行政、医療機関等の対応を理解する 感染症、食中毒集団発生時に看護師が求められる行動を理解する		
受講上の注意 演習ではグループワークを行います。			評価方法 筆記試験 (中村80点・安藤20点)
事前学習内容 臨床微生物、病態生理学の感染症、基礎看護学、各領域で学習した 感染予防に関することは復習をして臨むこと			
使用するテキスト 系統看護学講座 アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)			
参考文献 大曲貴夫、操華子編集 感染管理・感染症看護テキスト(照林社)			

科目No. 88		配当時期 4年次全期	担当者
科目名	看護リフレクションⅡ	単位数 1単位	山本 絵奈
時間割表記名	看護リフレクションⅡ	時間数 30時間(15回)	ディプロマ・ポリシーとの関連
科目全体のねらい 臨地実習の体験をリフレクションし、状況の認知・状況の問題意識・状況から得た学びを価値に転換できる能力を育成する			○ 1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
授業目標			2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
①実習で体験した安全に関する学びを統合し、医療安全について考察し、課題を明確にすることができる			3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
②領域別実習、統合実習の体験をリフレクションし、状況の認知・状況の問題意識・状況から得た学びを価値に転換できる			4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
③リフレクションを通して、自己と向き合い、自己の看護観をまとめることができる			○ 5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	方法	学習成果
1	看護リフレクションの意義	演習	1. 看護リフレクションの意義を深めることができる
2	省察的实践としての看護①	演習	1. 省察的实践としての看護を考えることができる
3	省察的实践としての看護②	演習	1. 省察的实践としての看護を考えることができる
4	看護リフレクション(個人ワーク)	課題	1. 領域別実習・統合実習における看護をリフレクションすることができる
5	医療安全- 実習における学びの統合	演習	1. 領域別実習で体験した自己のヒヤリハット・アクシデント事例を俯瞰し、
6	(個人ワーク)	課題	自己のリスク感覚を評価・考察し、課題を見出すことができる
7	医療安全- 実習における学びの統合	演習 (発表)	1. 発表を通して、看護事故防止のための対策および医療安全における課題を深めることができる
8	看護リフレクションにおけるフィードバック	講義	1. フィードバックのスキルを身につけることができる 2. ピア・コーチングの要素がわかる
9	看護リフレクション	演習	1. 自己の看護リフレクションをプレゼンテーションできる
10	グループディスカッション	(発表)	2. ディスカッションを通して状況の認識、状況の本質を深めることができる
11	看護リフレクション 状況の認識、本質を深める	演習	1. 2年次生の看護リフレクションを読み、状況の認識、本質を深めるためのフィードバックについて考えることができる
12	看護リフレクション フィードバック、対話 (2年次と合同授業)	演習	1. 2年次生と状況の認識、状況の本質、採るべき行動を深めるための対話ができる 2. 自己のフィードバックについて振り返り、課題を見出すことができる
13	看護リフレクション 発表会参加	演習	1. 2年次生の看護リフレクションの発表を聴き、講評を述べることができる
14			
15	私の看護観	演習 (発表)	1. 看護リフレクションを通して、自己の行動や思考を振り返り、自己理解を深めることができる(看護実践能力における自己省察、看護観)
受講上の注意 実践を振り返るプロセスを通して、より良い看護を模索する機会です。既習の学びを集大成しながら、自己と向き合い、自己を成長させて下さい。			評価方法 出席・取り組み状況 30点 課題レポート 70点
使用するテキスト			
参考文献 田村由美：看護の教育・実践にいかすリフレクション(南江堂) 東めぐみ：看護リフレクション入門(ライフサポート社) サラ・バーンズ：看護における反省的实践(ゆみる出版)			

科目No. 91		配当時期 4年次全期		担当者 柴田 明美 (16回) なかの まさこ 中野 雅子 (2回) 研究指導教員 (12回) ディプロマポリシーとの関連	
科目名	看護研究Ⅱ	単位数	2単位		
時間割表記名	看護研究Ⅱ	時間数	60時間(30回)		
事前学習内容①研究活動の実際 ②研究発表				1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている	
科目全体のねらい・授業目標 研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的な視点から深く考察する 質の高い看護を追求する能力を養う				2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている	○
				3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている	
				4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている	
				5. 看護を探究しつづける力を身につけている	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
時期	回数	学習内容	方法	学習成果	備考
4月～	1	柴田① 看護研究Ⅱガイダンス	講義		
	2	柴田② 研究の実際	講義	研究の実際	
	3	柴田③		各グループに分かれて質疑応答 (10G)	
	4	研究指導① データ収集 データ入力	ゼミ形式	①プロジェクトチーム内での役割が遂行できる ②研究テーマに応じて適宜文献検索・検討できる ③研究デザインに応じたデータ収集・分析ができる ④必要に応じて適宜研究計画書の修正ができる ⑤研究倫理の原理原則を実践できる ⑥個人およびチームでのスケジュール管理ができる ⑦計画性をもって面接指導を受けることができる ⑧研究目的に沿った考察・結論を導くことができる	プロジェクトチームに分かれて活動 (チームで出席簿を作成すること)
	5	研究指導② データ分析			
	6	研究指導③ チーム内での討議 ・結果および考察 ・担当教員による面接指導			
	7	柴田④			
	8	研究指導④			
	9	研究指導⑤ 研究成果の執筆	演習	①執筆要領に沿って記述できる ②一貫性のある内容および文章にまとめることができる ③論文を要約して簡潔に伝えることができる ④図表は適切で伝わりやすいものを作成できる ⑤研究指導教員に適宜助言を仰ぐことができる ⑥期限提出を守ることができる	研究論文と要旨は 8月 日までに 提出すること
	10	研究指導⑥ 論文構成と文章の推敲			
	11	研究指導⑦ 研究タイトルの見直し			
	12	研究指導⑧ 図表作成			
	13	研究指導⑨ 論文と要旨の提出			
	14	研究指導⑩			
	9月～	15	研究指導⑪		
16		柴田⑤ 口頭試問に向けて	講義	①口頭試問に向けて、論文をクリティークできる	A
17		中野③④ 論文内容の審査について	演習	①論文内容の助言から、口頭試問の準備ができる	
18		柴田⑥	口頭試問	①研究論文の評価を受け、再検討の必要箇所がわかる	C
19		研究指導⑫ 研究の見直しと再提出	演習	①研究論文および要旨の再検討・修正・加筆ができる	B
10月～	20	柴田⑦ 発表会運営①	講義 演習	①クラス全体での役割分担を決定できる ②運営側に必要な知識と態度が分かる	
	21	柴田⑧ 発表会運営②	演習	①参加者に事前に配布する集録集を作成できる ②役割ごとに必要な調整を話し合うことができる	
	22	柴田⑨ 研究成果の発表①	講義	①口頭発表での発表原稿・スライド作成方法が分かる ②研究発表の礼儀作法や質疑応答の意義が分かる	
	23	柴田⑩ 研究成果の発表②	演習	①チームごとに発表原稿とスライド資料を作成できる	科目担当の指導を受ける
	24	柴田⑪ 研究成果の発表③	演習	①抄録を深く読み事前に質疑したいことを考える ②質疑に対する回答を用意できる	
	25	柴田⑫⑬ 研究成果の発表④ 発表会運営③	演習	①プロジェクトチーム別に発表リハができる ②発表当日に向けて会場設営できる ③役割別に運営リハができる	
	26	柴田⑭⑮ 研究発表会	発表	①わかりやすく他者に伝えることができる ②批判的な視点をもって他者の発表を聞くことができる ③下級生の聴講や来賓への円滑な対応ができる	D
	27				
	28				
	29	柴田⑯ 臨床で看護研究に取り組むには	講義	①臨床でも看護研究に挑める展望を持つことができる	
	受講上の注意 研究はチームワークと、積極的な活動が大切である。 研究担当教員には、学生が主体的にアポイントを取ること。 また、課題提出・演習参加・聴講参加・面接指導・口頭試問・発表など、あらかじめ指示された時間や様式などのルールを守ること。				評価方法 A. 査読 (チームごと) 15点 B. 研究論文評価 (チームごと) 50点 C. 口頭試問 (個人取り組み) 15点 D. 発表内容 (チームごと) 10点 E. 運営演習 (個人取り組み) 10点
参考文献 『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他、医学書院、2016。 『黒田裕子の看護研究 Step by Step』黒田裕子著、医学書院、2017。 『APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール』前田樹海・江藤裕之著、2013。					

科目No. 93		配当時期	4年次全期	担当者	阿形 奈津子
科目名	看護実践強化セミナーⅡ	単位数	2単位	きだ えり まえかわ よしかず	木田 絵理・前川 義和
時間割表記名	看護実践強化セミナーⅡ	時間数	30時間(15回)	(クリティカルケア認定看護師)	
				ディプロマ・ポリシーとの関連	
科目のねらい					1. 人としての成長を目指す人間性の豊かさを身につけている
対象の健康問題に応じた看護が実践できる人材を育成するために、看護基礎教育でその習熟度を高めたい技術として救命救急の技術力を高めていく。					2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
授業目標				○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
1. クリティカルな状態の対象のアセスメントを適切に行うことが出来る。				○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
2. 健康状態の変化を臨床判断のサイクルをもとに分析できる。					
3. 臨床看護師と共に、急激に変化する事例の状態を判断し対応する思考過程を学ぶ。				○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている
4. クリティカルケアに必要な能力について課題を明確にし、自己研鑽できる。					
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	方法	学習成果		
1	看護実践強化セミナーⅡ 授業概要	講義 演習	講義概要・【演習】ガイダンスと演習計画立案		
2	ACLSシミュレーションに向けた事例の理解	GW	【演習】の学習(救命搬送事例の理解)		
3・4 (木田)	クリティカルケアの実際と必要な看護について 認定看護師から学ぶ	講義 演習	救急時に必要な対応と看護についてスペシャリストより学ぶ		
5・6	ACLSシミュレーションに向けた役割の明確化とシナリオ作成	GW	1. 救急事例への対応(搬送時の情報収集) 2. 連絡情報から想定した対応(受け入れ準備) 3. 実際の救急救命の援助技術の計画		
7・8・9	【ハーツ演習】①気管内挿管が助②BLS③モニター装着と監視④点滴挿入(輸液ポンプ、シリンジポンプ)⑤救急薬剤の確認⑥環境調整	演習 GW	救急場面のシミュレーション課題の学習・技術習得		
10・11・12	【演習】実践に向けた技術練習	技術練習	1. 使用物品の確認と準備		
13 (前川)	シナリオの実践・計画の追加・修正	チェック	2. 救急場面のシミュレーションシナリオの修正 3. シナリオにそった練習 4. 発表の準備・資料作成		
14・15 (前川)	【発表会】救急場面のシミュレーション発表	発表会	演習室で実際の場면을想定し実践・講評		
受講上の注意				評価方法	
本授業は演習等で学生の主体的な学習活動によるものです。まずは出席して、課題に取り組むこと。毎回課題評価をします。それを加点していきます。 対象の状態に応じた看護過程を一人で展開できるようになることをめざします。 ※情報収集は電子カルテからします。必要時コンピュータ室に移動します。				演習課題達成状況 60点 ルーブリックによる自己評価 20点 タイムトライアルテスト 20点	
				※評価表に沿って進めること	
使用するテキスト					
系統看護学講座 クリティカルケア看護学(医学書院) ※2年次で使用					
参考文献					

科目No. 94		配当時期 4年次全期		担当者 阿形 奈津子 小 笹 考 史 (心不全看護認定看護師) むら かつ 幸 穂 (脳卒中看護認定看護師) 奥 佳 奈 (在宅看護専門看護師) 伏 見 聖 子 (診療看護師)	
科目名 特定分野看護セミナー		単位数 2単位			
時間割表記名 特定分野看護セミナー		時間数 30時間(15回)			
科目全体のねらい 看護の専門性の追求をめざし、特定分野についての新しい知見・優れた技術を持つ専門看護師・認定看護師・診療看護師を招き、最新情報や技術について学び実践的関心を高めて生涯学習をし続ける意義と専門職としての今後の展望を持つ				ディプロマ・ポリシーとの関連	
					1. 人としての成長を目指す 人間性豊かさを身につけている
					2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
					3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
				○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
学習目標 1. 特定分野の新しい知見や優れた技術を学ぶ 2. 特定分野の看護実践に興味をもち、自ら学習する 3. 生涯学習の意義を理解し、看護専門職者としての展望をもつ				○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
担当	回数	学習内容	方法	学習内容	
阿形	1	ガイダンス	講義	スペシャリストの講義の受講について フィールドワークについて 発表会・シンポジウムについて	
小 笹	2	認定看護師制度について 心不全看護認定看護師について	講義 演習	認定看護師の歴史、資格取得、活動内容など 心不全看護認定看護師の役割 心不全看護認定看護師の活動 心不全看護認定看護師の課題と展望	
	3				
村 上	4	脳卒中看護認定看護師について	講義 演習	脳卒中看護認定看護師の役割 脳卒中看護認定看護師の活動 脳卒中看護認定看護師の課題と展望	
	5				
奥	6	在宅看護専門看護師について	講義 演習	在宅看護専門看護師の役割 在宅看護専門看護師の活動 在宅看護専門看護師の課題と展望	
	7				
伏 見	8	診療看護師・特定看護師について	講義 演習	診療看護師・特定看護師の役割 診療看護師・特定看護師の活動 診療看護師・特定看護師の課題と展望	
	9				
阿形	10	フィールドワークの実施(インタビュー・学会参加・文献検討など)・発表レポート作成	課題学習	自己が選択した特定分野についての学びをレポートにまとめる。また、まとめたものを発表できるよう準備する(会場準備・役割確認)	
	11				
	12				
専門 看護師 認定 看護師	13	特定分野看護セミナー発表会 特定分野のスペシャリストの方々とのシンポジウム	発表会・ シンポ ジウム	発表会では講義を受けたスペシャリストの方々に参加してもらい、学びの共有と今後の展望やスペシャリストの方々の違う分野での多面的な看護に対する考え方などを聞く機会とする。	
	14				
阿形	15	まとめ	自己課題	専門職者としての自己の課題と展望についてレポート作成する	
受講上の注意 4年間の学びの集大成として、将来目指すスペシャリストの講義を聞き、より専門職者としての意識を高める。前半はスペシャリストの講義・演習、並行して後半の発表会・シンポジウムに向けた取り組みをする。将来目指したい分野、または興味がある分野のスペシャリストへのインタビューを通して、より学びを深め、将来の看護に活かしてもらいたい。 ※インタビュー可能な分野や、候補についてはこちらからいくつか提示しますが、個人の希望も受け付けます。ガイダンスを聞いてから積極的に取り組みましょう。 講義に来られるスペシャリストの分野の研究論文・文献などを必ず調べ臨むこと				評価方法 各スペシャリストの学び 各5点×4 計画書 10点 取り組み 10点 発表会 20点(資料・プレ) 課題レポート 40点	
使用するテキスト					
参考文献					